

事務局は地域をつなぐゴールキーパー

秋田県中小企業団体中央会 工業振興課長

畠山 頼仁さん



●あきた食品振興プラザの役割

秋田県は、米に代表される多くの農産物を生産するとともに、日本酒に代表される加工品など、産業基盤の一翼を農業と食品産業が担っており、地域には欠かせない存在である。

このような背景もあり、中央会では昭和55年に国、県の積極的な支援を受け「秋田県食品産業協議会」を発足させ、その後、発展的な改組を行い、平成3年4月25日に「あきた食品振興プラザ（以下『プラザ』と略す）」を設立した。なお、会員は、主に秋田県内の組合や企業など150組織（H22.4.1現在）となっている。

上記に記した国や県などの複数の支援事業のうち、食に係るパッケージ型の支援事業の多くは、このプラザで実施している。

プラザでは、①情報提供事業、②技術力強化人材育成支援事業、③販売展開推進事業、④商品開発等支援などを主な推進業務としており、②は食料産業クラスター形成促進として農林水産省の施策とも大いに連携し、各種セミナーや研修会など、人的ネットワークの構築支援、企業の基盤力向上などの活動を実施している。

秋田県中小企業団体中央会は、秋田県の連携や組織化など、中小企業が行う地域の事業活動のグループ化などの支援を行っている。

秋田県が進める各種事業支援とともに、経済産業省が進める地域資源・農工商連携事業や新連携・経営革新事業、更には、農林水産省の食料産業クラスター事務局など、多くの地域支援窓口を担当している。

今回は、当該組織において、現地事務局等の職務に就かれ、事業を進める中核的立場で日々汗を流されている畠山工業振興課長を訪問し、連携事業推進のための事務局の位置づけなどについてお話をを行った。

○畠山さんの経歴と事務局スキル

畠山さんは秋田県男鹿市（旧若美町）出身。高校卒業後、都内の大学に進学し、その後、郷里秋田に戻る。大学卒業以来、中央会の職員として勤務し、その間、県の外郭団体である財団法人あきた企業活性化センターなどへの出向を経て、現在の職務にあたっている。

事務局業務の推進にあたっては、これまで長い時間をかけて培ってきた『秋田県全県単位で人を知っているネットワーク力が大いに役立っています』と話す。

中央会では、プラザの活動と並行もしくは連携し、具体的なテーマ性をもった枠組み活動も推進している。

例えば、秋田県内の企業が開発する商品の容器、包装、デザインなどの技術を高めるため、地域の関連企業やデザイナー等を参集して、秋田デザインネットワークを立ち上げたり、秋田県の食材の機能性等について技術開発支援を行う食品機能性研究会を発足させたりしている。

なお、秋田デザインネットワークは、その後、平成20年に中央会から巣立ち、秋田県内のデザイナーが参集した「LLPあきたデザインサポート」に引き継がれている。

あきたデザインサポートの活動は、市民と作家の架け橋としての空間として、県内にデザインショップ「秋田鼯」の出店などにもつながっている。



『秋田轟眞』県内に出店されているデザイン空間



『白神そばRUSK』新たなパッケージで勝負

●支援機関としての責務

全国に設置されている中小企業団体中央会の役割は、事業協同組合、企業組合、協業組合、商工組合、商店街振興組合など、地域の中小企業が連携するための組織の設置と運営である。しかし、昨今の地域の事業者を取巻く環境は大きく変化し、中央会においても独自の事業を推進し、地域の中小企業者への活動を行うことが求められている。

このような環境の変化に対し、秋田県中央会および畠山さんのこれまでの活動について伺った。

「確かに中央会は連携組織を設置・運営する支援機関ですが、それだけでは本当の支援はできません。地域の事業者のみなさんが何を考え、何に困っているかを現場で知ることが重要です。そのために、中央会では職員による組合訪問を強化し、みなさんのご意見を聞く取組を、これまで以上に進めています。」

また、「これまで、農林水産省のクラスター協議会や、平成22年度には地域の他の機関との連携による経済産業省の中小企業応援センター業務などを行っていますが、それ以外にも県の商品開発事業である「秋田県特産品開発コンクール」のサポートなども行っています。これらを通して、あと一歩のお手伝いをするのが中央会など、支援事務局の役割だと思っています。」

あと一歩のお手伝い（白神そばRUSK）

秋田県では、秋田県の特産品の振興を図るため、市場性・商品性に富み、かつ品質デザイン等に優れた作品を表彰する「秋田県特産品開発コンクール」が実施され、平成22年で30回を数えます。中央会では、このコンクールに応募し、あと一歩のところまで入選できなかった商品へのサポートを行っています。例えば、写真にある「白神そばRUSK」は、味はよいものの、パッケージデザインが足りませんでした。

そこで中央会が持つデザイナーのネットワークを駆使し、商品のコンセプトにあった新たなデザインを事業者さんとともに追求しました。生まれ変わった商品は、お客様の目に留まり、手にとってもらえる鮮やかさを強調しています。

事務局は地域をつなぐゴールキーパー

地域の拠点や応援センターなどをおとして、地域のみなさんとのデータベースが構築できました。地域の連携活動における事務局は、コーディネーター等との協力により、地域をより活性化させてゆくためのプランナーだと思います。

プランナーである事務局は常に、一歩下がった状況から、連携差配します。それはサッカーのゴールキーパーのような存在だと思っています。



（文：社団法人食品需給研究センター 長谷川 潤一）